鹿児島市立桜丘中学校 令和5年9月22日

第6号 「見えないガラス」

校長 上久保大介

ある中学校に校長として赴任したときの話です。ワクワクしながら校長室に入ると、窓という窓がすべて曇っていました。その校長室は1階にあったので、廊下側にも校庭側にも入り口があり、外からも出入りができるような構造になっていました。ですから突然、地元の人や見知らぬ人が外から入って来ることがありました。私は不用心であること以上に、曇ったガラスの付いた戸を開けて入ってくることの方が気になっていました。

そこで、校長室の掃除の生徒には、**毎日、窓磨き**をしてもらうことにしました。 生徒が喜ぶのは3日ぐらいです。4日目になると飽きが来て、ほとんど面白くな さそうでした。でも、潮風に毎日さらされているその学校では、仕方のないこと なのです。そんな生徒に私はいつも言っていました。

「窓(=ガラス)は曇っていると、"汚れている"と、すぐ気付くよね。逆に透き通っていると、誰も"きれいなこと"に気付かない。その気付かないことが大切なんだよ。」と。

廊下にゴミが落ちていると、すぐ気付きます。でも、何も落ちていないと、きれいなことに誰も気付きません。「そうじ」とはきれいであることに気付かないぐらい、きれいにすることです。きれいであれば、自分の目的に合った活動や行動をストレスなくすることができます。逆に、人は汚いことや不快なことには気付きやすいものです。汚ければ、嫌な思いになり、自分の能力を十分に発揮できなくなります。さらに心配なのは、汚い状態が日常化してしまうと、それが普通になり、汚さに気付かなくなってしまうことです。

日常生活も同じです。ルールを守り、するべきことをきちんと行い、他人の迷惑になるような行動を慎んでいる人は、心豊かな生活を送ることができます。逆に自分勝手なことをし、自分の役割も果たさず、他人の迷惑になるような行動をする人は、それが日常化するだけではなく、周りへの影響に鈍感になり、さらに生活はすさんでいきます。これが、心が曇っている人と、心が透き通っている人の違いです。

<u>自分の今を作っているのは過去の自分であり、自分の未来を作るのは今の自分</u>です。いつ、どのタイミングで磨きを入れるかは、その人次第です。

「見えないガラス」は、「見えないのに美しい」そんな人生を送りたいものです。